

県内初!!

豊郷町「龍ヶ池揚水機場」 世界かんがい施設遺産に登録!

Topic!

2024年(令和6年)9月3日、オーストラリア・シドニーで開催された第75回国際かんがい排水委員会(ICID)国際執行理事会において、豊郷町石畑の「龍ヶ池揚水機場」が世界かんがい施設遺産に認定・登録されました。

当時(大正初期)、蒸気ポンプで地下水を汲み上げる画期的な施設で、干ばつの際に水を汲み上げる労働から農民を救い、農地の生産性を高め、二毛作を促進したことが評価されました。



建設当時を偲ばせるレンガ煙道煙突と建屋

石積みと木枠で作られた池

●「龍ヶ池揚水機場」の歴史●

豊郷町石畑地区は、犬上川から離れており長年干ばつに苦勞が絶えず「はねつるべ」などによって水を確保していました。

明治42年 (1909年)	特にこの年の干ばつは厳しく、農業用水として常に確保できる水源を求めて龍ヶ池の設計が計画。同年12月工事開始。
{	多くの人員を動員して掘り進め、約1か月で豊富な地下水を確認。
明治43年 (1910年)	6月イギリス製の蒸気ポンプを備え付け揚水機場完成。
{	護岸や水路改修工事。
大正2年 (1913年)	11月竣工。水不足が解消し、農業の安定と経済の発展が実現。



本機場には、ポンプ室やボイラー室などがあり、4.5m四方、深さ11mの井戸からの地下水により、一帯の31.7ヘクタールを潤し、米の収量の増加等に役立ちました。

大正時代に蒸気機関から電気での稼働に変わりました。揚水機場は今も現役。

●●●世界かんがい施設遺産とは●●●

かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全を資することを目的として、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したもの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を認定・登録するために、創設されました。